

# IMF サーベイ

欧州危機

## 欧州、経済成長の回復のための 包括的措置が必要

IMF サーベイ・オンライン  
2012年6月18日



スペインの自動車工場の労働者。欧州は経済成長強化のために、長期・短期両方の政策が必要だ（写真：Felix Ordonez/ロイター）

- 高失業率と低迷する成長が欧州の安定性を損なっている
- 構造改革アジェンダ、GDP を今後 5 年間で 4.5%押し上げ、ユーロ圏内のリバランシング（再調整）の進展に貢献すると期待
- 競争力が弱く景気後退局面にある南欧、成長再活性化のための追加政策が必要

IMF は、欧州の政策決定者は経済・財政の問題を払拭するため、このところ過去に例のない措置を講じてきたと述べた。各国は政府債務や財政赤字を減らし、弱い銀行に資本注入を行っている。ユーロ圏の危機対応のための防火壁の強化、欧州中央銀行（ECB）による融資、および新たに結ばれた財政協定により、リスクは軽減された。

しかし IMF は、景気後退が続き、多くの国で失業率が高い上に上昇を続けているため、政策決定者は追加的な手立てを講じる必要があると指摘した。

この新たな[論文](#)で、IMF のスタッフは、欧州の低成長を分析し、解決のためには長期と短期の措置が必要だとの見方を示した。構造改革がその実を結ぶには時間がかかるため、製品やサービスの各市場の改革、さらに労働市場や年金制度の改革は遅滞なく実行に移す必要がある。

この分析によると、大規模な改革を行なうことで、GDP が 5 年間で 4.5%上昇する可能性がある。その成果の 4 分の 1 は、改革を協調し一体となって取り組みを進めた国々によって達成されるであろう。このことは、各国がそれぞれの優先課題に応じて政策を決定する必要がある一方、協調的なアプローチの重要性を浮き彫りにしている。

また、改革による成果の半分に相当する約 2.25%は、製品、サービス各市場の改革によるものと考えられ、流通部門や規制が多い専門職制度といった既得権者と戦う

ことがいかに重要かを示している。欧州北部では労働参加率の向上とサービス業の効率化、南部では労働市場の機能強化に緊急に取り組まねばならない。

### 今こそ成長促進策を

IMFは、政策決定者が成長を促進するために2面的なアプローチを取ることが必要だとみている。

今回の調査を主導したIMF欧州局のロドリゴ・ヴァルデス副局長は「中期的な成長見通しを確かなものとするため、構造改革を今こそ実施しなければならない」と述べた。その一方で、「短期的な成長を十分に促進するためには、こうした中期的構造改革を補完する必要がある。すなわち、政策決定者は、ある時には外需を、またある時には内需を促進する政策を採り補わなければならない」と述べた。

欧州各国の需要には強弱がある。すなわち、欧州北部では今も成長が続いているが南部では崩壊している。この不均衡を解消するため、共通通貨の導入以来南部で見られた競争力ギャップの拡大という流れを逆転する必要がある。

つまり北部のインフレ率は南部より幾分高くなければならず、また南部では名目賃金を抑制し、北部では市場や生産性の拡大に応じて賃金上昇を容認しなければならない。構造改革もまた、国やセクター間での相対価格や賃金の調整を促すための鍵である。

政府債務や財政赤字の削減、銀行の資本増強と中核事業以外の事業資産の売却による景気への悪影響は、幾つかの異なる政策手立てを講じて緩和しなければならない。

現在進められている金融政策による下支えは今後も欠かせない。景気下降局面において、財政の名目上の目標の達成は景気循環の増幅効果を伴う。財政面で余力がある場合は、構造的な財政バランスの改善へ焦点を移すこともできよう。また、公的な財源プールについては、これを強化し、労働市場を改善するためのより強力な介入を行うなど、これまでよりの絞りを絞って効果的に運用することも可能だ。

銀行の貸し出し能力を維持するために、銀行は一段と再建を進め、外国からの直接投資の促進を図ることが必要だ。共通の資金プールを構築し、銀行に対して直接出資する仕組みを検討すべきである。そうした努力の一方、銀行に対する規制や監督、清算権限、セーフティネットの一元化が必要である。

失業率の改善は急がなければならない。またその実現のためには経済成長が唯一の手段であるとIMFはみている。